

年次研究計画書 2020年度 バージョン1.0 承認日：

制度名	CREST
領域名	[demo地球と未来]demo地球と未来
e-Rad課題ID	99889902
課題名	demo新型素材を用いた超高速集積デバイス
研究代表者名	四ッ谷 次郎

研究題目	新型素材を用いた超高速集積デバイス
契約研究機関名	未来大学：四ッ谷次郎
研究題目担当者氏名	四ッ谷 次郎

< 予算計画サマリ(全期間/年度別) >

単位：千円

費目	合計
物品費	106,090
旅費	12,340
人件費・謝金	50,290
その他	5,600
合計	174,320

費目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
物品費	26,090	60,000	5,000	5,000	5,000	5,000
旅費	2,340	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
人件費・謝金	10,290	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
その他	4,200	300	300	300	300	200
合計	42,920	70,300	15,300	15,300	15,300	15,200

< 予算計画明細 >

予算明細サマリ (単位: 千円)

合計金額

費目	直接経費
物品費	26,090
旅費	2,340
人件費・謝金	10,290
その他	4,200
合計	42,920

費目	総合計
物品費	26,090
旅費	2,340
人件費・謝金	10,290
その他	4,200
合計	42,920

直接経費 (単位: 千円)

1. 物品費

1.1 設備用品費

JST執行	設備・機器名	用途・必要性	購入予定時期(四半期ごと)	単価	数量	積算額
	顕微鏡	作成した試料を直接視覚的に観測し、 やへの影響を評価するため。	第4四半期	20,000	1	20,000
	用クライオスタット	既存の装置と比較して精度が1桁以上向上する クライオスタットを購入することで、 の構造をより詳細に解析するため。	第3四半期	3,500	1	3,500
	用ソフトウェア	の動作メカニズム解明のため、シミュ レーションを行うため。		150	1	150

小計	23,650
----	--------

1.2 消耗品費

JST執行	品名	用途・必要性	単価	数量	積算額
	基板材料一式	試料作成用基板の作製	50	20	1,000
	試薬 ( )	試料の調製	60	24	1,440

小計	2,440
----	-------

2. 旅費

2.1 旅費

JST執行	種別	氏名	用務先(国、都市名)	用務・目的等	時期	期間	単価	回数	積算額
-------	----	----	------------	--------	----	----	----	----	-----

	国内	××、他研究員 2名	大学(東京)	月例チームミーティング	毎月第2週頃	1日	50	36	1,800
	国内	××(大学教授)	会議場(京都)	外部専門家のシンポジウムへの招聘	8月17~18日	2日間	40	1	40
	国外	××	大学(米国、サンディエゴ)	Conferenceに参加し成果発表を行う	10月第1週	5日間	500	1	500
小計	2,340								

3. 人件費・謝金

3.1. 人件費

JST執行	雇用機関における名称	ERATO職位	役割(研究遂行上の任務)	氏名	単価	単価/単位	雇用期間	エフォート	備考欄	積算額
	特別研究員			研究員A	400.0	千円/月	10	100%	6月より雇用予定	4,000
	技術員			××	3,600.0	千円/年	1	80%		2,880
	リサーチアシスタント			××	1.5	千円/時間	120			180
	准教授			四ッ谷次郎	8,000.0	千円/年	1	40%	1. 所属機関の(委託研究)契約担当者に、所属機関のルール・仕組み及びJSTのルールに従い問題ない金額であることを確認し、PI人件費を計上した。 2. 期中に、PIのエフォートを変更する場合、所属機関がエフォート変更に連動して執行を管理するために、契約担当者への再確認が必要であることを承知した。	3,200
小計	10,260									

PI人件費を計上する場合はこのように記載ください。

3.2. 謝金

JST執行	氏名	用務・目的等	単価	回数	備考欄	積算額
	××	チームワークショップにおける講演謝金	30	1		30
小計	30					

4. その他

4.1. その他

JST執行	件名	目的・用途	単価	数量	備考欄	積算額
	装置 関連修理	本研究の に使用している 装置の 部分の修理	600	1		600
	用ソフトウェア開発	シミュレーション専用のソフトウェアの請負業務	2,500	1		2,500
	シンポジウム開催費	8月に行うシンポジウムの会場借料等	500	1		500

	バイアウト経費	研究代表者 × × が20%の-effortを割いている 講義を代行する者の人件費	10	60	1. 所属機関の(委託研究)契約担当者に、所属機関の ルール・仕組み及びJSTのルールに従い問題ない金額で あることを確認し、バイアウト経費を計上した。2. 期 中に、PIの-effortを変更する場合、所属機関がエ ffort変更に関連して執行を管理するために、契約 担当者への再確認が必要であることを承知した。	600
--	---------	--	----	----	--	-----

小計	4,200
----	-------

バイアウト経費をを計上する場合はこのように記載ください。

・次年度以降に必要となる主な設備 (2,000千円以上)

次年度以降に必要となる主な設備

件名	使途・必要性	購入予定年度	金額
検出器	顕微鏡の 検出部分の増設	2021	18,000

小計	18,000
----	--------